

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年 11月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2271101145
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム くすのき
所在地 (電話番号)	静岡県沼津市千本常盤町 5-1 055-954-1812
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年09月12日(水)

## 【情報提供票より】(平成19年 8月 30日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 04 月 01 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	16.5

### (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨 造り	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 65,000 円 )	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4)利用者の概要(平成19年 8月 30日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低 71 歳	最高 97 歳		

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	新井内科クリニック・石田歯科
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

沼津千本松原の若山牧水記念館に近い、閑静な住宅街に立地している。ホームの玄関には名前の由来となる「くすのきの古木の置物」があり、ホーム周辺には菜園を持つ家庭的で明るい雰囲気のあるホームである。開設当初に職員全員で運営理念を作成し、実践に取り組んでいる。自己評価も同様に全員で取り組み、完成させた。ホーム長・職員共に在籍してから安定しており、家族への介護計画の説明・近況報告もよく行われている。更なる発展のために、テーマを絞った計画的な研修の工夫、栄養・水分記録、終末期対応、地域密着・ホーム機能の地域還元等の取り組みが望まれる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回10項目の指摘のうち、栄養摂取状況、市町村との関わり、地域への還元を除き、改善が実施されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を全員に渡してフロア一長と一緒に考えさせ、それをホーム長がまとめた。それを生かして、利用者や家族への言葉遣い等の諸注意事項「再度自分を振り返ってください。」にまとめ、事務所に掲示して注意を喚起していた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	これまで3回開催され、自治会長・民生委員・老人会・地域包括支援センター・ホーム関係者が参加し、ホーム状況説明、防災地域協力依頼を行った。利用者・家族の参加は、これからである。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談窓口は重要事項説明書明示され、ホーム内にも窓口を掲示している。毎月の近況報告、面会時の話し合い、電話連絡、ホーム長の面談結果、家族の意見等をカンファレンスで検討し、それらを反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	川掃除、敬老会、運動会、文化祭、地域防災訓練、手品ボランティアの受け入れや参加等行われている。ホームの特性を生かした介護相談等、受身から積極的な活動への転換が期待される。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念	開設時に皆で作った理念「私たちは 家庭的の雰囲気の中で 笑顔を決やさず共に笑い 皆と幸せを共有できる空間を創っていきます」を作り上げている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	○理念の共有と日々の取り組み	理念を出入り口の目立つ場所に掲げ、毎日目を通し、理念の実施に向け日々取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい	敬老会・防災訓練・文化祭への作品出展・川のそうじ・草取り等に参加している。隣の大家さんの理解にも助けられている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用	自己評価票を全員に渡してフロー長と一緒に考えさせ、それをホーム長がまとめた。それを生かして、利用者や家族への言葉遣い等の諸注意事項「再度自分を振り返ってください。」にまとめ、事務所に掲示して注意を喚起していた。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み	これまで3回開催され、自治会長・民生委員・老人会・地域包括支援センター・ホーム関係者が参加し、ホーム状況説明、防災地域協力依頼を行った。利用者・家族の参加は、これからである。	○	利用者や家族が参加した、2ヶ月に1回の定期開催を検討したい。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携	介護保険申請・事故報告書・研修参加などで行く機会があるが、ともにサービス向上への取り組みは、これからである。	○	市町村もホームも多忙だと思われるが、絶えず連携の方策を検討し続けていただきたい。
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告	月に1度、全体や個々の近況報告の手紙・出納帳のコピーをご家族に送付しており、家族からも喜ばれている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
8	15	○運営に関する家族等意見の反映	相談窓口は重要事項説明書明示され、ホーム内にも窓口を掲示している。毎月の近況報告、面会時の話し合い、電話連絡、ホーム長の面談結果、家族の意見等をカンファレンスで検討し、それらを反映させている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
9	18	○職員の異動等による影響への配慮	職員の移動や離職は少ないが、辞めたときは、職員は差し支えない統一した理由を言うようにしており、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み	職員の研修については情報を提供し、その機会を確保しているが、年間を通じての計画的な計画と実施の記録は見られなかった。	○	職員のレベルに応じた研修・テーマ分担による研究・資格取得の支援等、年間研修計画の策定を検討願いたい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
11	20	○同業者との交流を通じた向上	包括支援センターの呼びかけによる、沼津市中部地域グループホーム会議に参加し、ネットワークづくりに取り組まれている。系列のホーム長会議は1～2ヶ月に1回行われ、交流出来る様になっている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までに、おやつだけ・昼食のみ・午前中だけと、少しずつ過ごす時間を増やしたり、体験入所を行ったりして、馴染める様になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	アセスメントや食堂での談話の中から、歌・カルタ・ボール遊び等一緒にできることを楽しんだり、昔の役立つことを教わったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、本人の意向把握に努めている。買い物や外出希望など、言葉や表情などからその真意を推し測り、可能な限り実行している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日ごろのかかわりの中で、思いや希望を聞き、反映させるようにしている。職員全員でアセスメント表を記入し、日々の情報交換や毎月のモニタリング、カンファレンスを基に介護計画が作成され、家族への説明、話し合いも行なわれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は、3ヶ月に1度介護計画の見直しを行い、毎月のカンファレンスや変化が生じた場合はその都度現状に即した介護計画の見直しを行っている。家族への説明・同意も得られているが、定期的な介護計画見直しを行っていることを確認できる仕組みはない。(までは至っていない。)	○	毎月のモニタリングやカンファレンスで浮かび上がった課題を含め、定期的に介護計画が見直しされていることが確認できる仕組み作りに取り組み願いたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等の支援や、満床時の系列他ホーム情報提供などの支援を行っているが、ホームの持つ独自の機能を、十分に生かしているとはいえない。	○	ホームの持っている認知症対応の様々な機能を、利用者やその家族、地域の住民などへ提供できるホーム独自のサービス(介護相談等)確立への取組を願いたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等と話し合い、かかりつけ医の継続やホーム提携医療機関への移行など、適切な医療が受けられるように支援している。提携医による週5回の訪問診療や、月2回の訪問看護師による看護なども行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、本人・家族の希望や医師のアドバイスを基にユニット会議で対応を話し合っているが、基本方針やマニュアルなどは整備されていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、ホームとしての基本指針の確立や、入居契約時から本人、家族の希望を確認し同意書をいただくなど、全職員で終末期対応を共有する仕組み作りに取組願いたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けに留意しており、事務所には「再度自分を振り返って下さい」という言葉掛けの留意事項が掲げられ、個人の記録にも注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が全体の一日のリズムを作り、入浴対応や食事から排泄まで、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援	献立は入居者の希望を取り入れながら作られ、食事の準備や、野菜を切ったり盛り付けしたり、配膳、片付けなど職員と一緒に、入居者のできることをしてもらいながら食事を楽しむことが出来る支援を行なっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
23	57	○入浴を楽しむことができる支援	入浴日は特に定めず、利用者の希望に合わせて対応している。入浴チェック表にて週2回は入浴できるような配慮も行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援	アセスメントや日常生活の対話の中から、その方の得意なことや趣味を把握し、活躍の場を提供している。歌やカルタ、習字、折り紙、季節の飾りつけや建物周辺の畑仕事など、楽しみごとややる気を引き出す演出を工夫している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
25	61	○日常的な外出支援	天候や本人の気分、希望に応じて、近くのコンビニへの買い物や散歩、ホーム玄関周りのベンチでのくつろぎや畑の手入れなど、戸外へ出る機会作りを工夫している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、日中は鍵を掛けず、見守ることを心がけている。周囲の理解も少しずつ進んでおり、近所の人から知らせてもらうこともある。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
27	71	○災害対策	年2回消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火訓練などを定期的に行っている。隣の大家さんからの協力や運営推進会議を通じて地域の協力依頼も行なっている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調による個々の食事・調理の工夫や食事摂取状況などは日々のチェック記録表「ごきげんいかがの表」に記録しているが、水分摂取量の記録や、食事全体の栄養バランスやカロリー計算などは行われていない。	○	定期的に管理栄養士による栄養バランス、カロリー摂取量の確認や、日々の水分摂取量の記録が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく広々としており、居室や廊下・居間への段差も無く、要所への手すり取り付け等高齢者への配慮がなされている。居間には季節の花や飾り付け、涼しげな水槽などが置かれ、壁や廊下などに入居者による書や装飾物、行事の写真などが掲示され、入居者の活動状況を表す工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には愛用の桐箆箆や家具、TV、畳敷き、化粧品、家族やホームでの写真、などが飾られ、利用者が居心地よく安心して過ごせるよう、以前と同じような環境を整える工夫がなされている。		